

オリンピックのメロディは時を越えて

「まもなく、2番ホームに、真駒内行きが到着します。ご注意ください」札幌市民にはなじみの深い、地下鉄の放送ですが、今年2月からはこの言葉に続いて、メロディが流れるようになりました。このメロディは1972年に開催された札幌冬季オリンピックのテーマソングとして世に出た名曲「虹と雪のバラード」の、さびの部分です。その歌詞はこうです。

♪眠っている～サッポロの地に～♪きみの名を呼ぶ～オリンピックと♪

この歌詞を書いたのは、整形外科医の河邨文一郎先生（札幌医科大学付属病院の院長を務め、北海道の肢体不自由児の父と呼ばれた方です）。河村先生は詩人でもあり、本校や手稲養護学校の校歌を作詞しました。このメロディを聴くたび、私は真駒内陸上競技場で開催された開会式を思い出します。聖火に灯がともり平和の象徴の鳩が飛びたつのを、当時小学校入学前の子どもだった私は、わくわくしながら見ていました。確かに冬季オリンピックの開催で札幌は大きく変わりました。札幌市を縦断する市営地下鉄は、世界的にも稀な積雪都市として有名な札幌の交通環境を向上させ、さっぽろ地下街や真駒内地区の住宅の建設など市街の近代化とインフラ整備するなど、市民生活に大きく貢献したのです。



運行開始当時の札幌市営地下鉄

ところで駅でこのメロディを聴いたみなさんは、メロディが「流れる駅」と「流れない駅」があることに気付いていましたか？ このメロディは原則としてホームが車両の両外側にある駅のみで流れます。これは、ホームが車両の間にあるいわゆる島形ホームの駅では、同じスピーカーからどちら向きの車両が来ているのかを表現しにくいからです。ただ島形ホームの駅で唯一、真駒内駅だけには「虹と雪のバラード」が流れます。真駒内駅は終着駅のため来る車両が片方からしか来ないことが主な理由ながら、「真駒内地区が大会の中心地区であった」ことも例外的に駅メロが流される理由とのこと。そして、この曲の2番のさびの歌詞は次のとおりです。

♪生まれかわる～サッポロの地に～♪きみの名を書く～オリンピックと♪

さて、札幌市は2030年に開かれる冬のオリンピックとパラリンピックを招致する意向を示しています。実現すれば、日本で2020年夏に東京で、その10年後の冬に札幌で、オリンピックとパラリンピックが開催されることとなります。



前回の東京オリンピックで開発された左記のようなマーク

（ピクトグラム）は続いて開催された札幌オリンピックでも使用され、今や世界中に広まっています。本校が開校した当時の札幌と比べ、はるかに住みやすくなったこの街の、更に未来に大いに期待したくなります。今後のオリンピック開催で何が変わるか、ここ札幌に障がいの有無にかかわらず、世界中からアスリートが集う日を思いながら、私は今からわくわくしています。（教頭 渡部 眞一）